

風のように

甘木教会

主任牧師：崔大凡

牧会委嘱牧師：竹田孝一



彼らは剣を打ち直して鋤とし 槍を打ち直して鎌とする。国は国に向かつて剣を上げず もはや戦うことを学ばない。

ミ カ書4：3

【説教要旨】

東京大空襲、その後の東京城南地区空襲を9歳で体験した毒虻三太夫が、「終戦といいたくないんだ、敗戦」と言われたように私も昨日は、敗戦記念でしたと言います。3月10日、東京大空襲で10万人が亡くなり、6月23日に敗戦した沖縄戦では、20万人が亡くなり、8月6日の広島原爆では、14万人が亡くなり、8月9日、長崎原爆では、7万4千人が亡くなりました。地方の諸都市でも空襲がありました。6月19日、福岡空襲では、1,100人以上が亡くなりました。教会で体験された方もいます。当教会の牧師であった坂根

東京城南空襲を9歳で体験した毒虻三太夫の「**虻三太夫×高校生“平和”と“いのち”を考える**」というNHKラジオ番組は、私が15年間住んだ町の名前が次々に出てきました。空襲で日が燃え広がるのを防ぐために木造の建物を壊され体験、いわゆる

「建物疎開」という強制的破壊で家を失ったという体験は、大森教会の信徒さんも虻さん同じ体験を話しておられたことを思い出しました。その方も空襲に遭われたのだと思いました。番組を聞きながら、平和がどんなに尊いかということをひしひしと伝わってきました。

灰谷健次郎さんの「いのちまんだら」という本に沖縄の言葉、「肝苦（ちむぐ）りさ」という言葉が出てきます。沖縄には同情という言葉はない。相手のことを思うなら、その痛みを我

がこととして背負えという意味だということです。

平和主日の時に読まれる聖書日課はミカ書です。預言者ミカが生きた時代は、北王国、南王国にしても大きな激動の時代でした。経済的繁栄と領土のダビデ・ソロモン時代の回復した時代です。しかし、同時に社会的腐敗、不正義のすすみ、貧富の格差増大が矛盾を深刻にしていきました。国の緩みは、外圧の迫る中で、一つ一つ崩れ去り、滅びていきます。この時代にミカは、4年間の活動をしました。主の裁きに信頼してこそ新たな救いの根拠があると告げていきます。

彼は当時の指導者を次のように批判します。

わたしは言った。聞け、ヤコブの頭たち／イスラエルの家の指導者たちよ。正義を知ることが、お前たちの務めではないのか。善を憎み、悪を愛する者／人々の皮をはぎ、骨から肉をそぎ取る者らよ。彼らはわが民の肉を食らい／皮をはぎ取り、骨を解体して／鍋の中身のように、釜の中の肉のように砕く。

指導者が民を犠牲にして、自分が生きているという「肝苦（ちむぐ）りさ」の心なさに対するミカの厳しい批判です。神のみ心は、「肝苦（ちむぐ）りさ」、相手のことを思うなら、その痛みを我がこととして背負え、ということです。

ミカの預言はまた私たちにもむけられているように思います。自分だけの論理と、繁栄を求めて、他国に軍隊をさしむけてもよいということは成り立つはずがありません。ミカはこの世界はきっと神の裁きの中に滅びると預言します。人よ、何が善であり／主が何をお前に求めておられるかは／お前に告げられている。正義を行い、慈しみを愛し／へりくだって神と共に歩むこと、これである。

私たちが知恵を、力を、富をもって他国に兵を送ることではなく、私たちの学ぶべきことは、「彼らは剣を打ち直して鋤とし／槍を打ち直して鎌とする。国は国に向かって剣を上げず／もはや戦うことを学ばない。」ということです。

それは、神のみ心は、「肝苦（ちむぐ）りさ」、相手のことを

思うなら、その痛みを我がこととして背負う心から出てくるみ言葉です。

私たちに新たな決意が求められているように思えます。

カトリック教会は、8月6日から15日までを「平和旬間」として守り、日本カトリック司教協議会会長談話「連帯のうちに平和な世界を築く」が発表されました。ルーテル教会は機関誌・「るうてる」の〈宣教室から〉において「平和を実現する」と題し、「平和を学び、平和を語り、平和を実現することを目指しつつ、聖霊によって確固たる平和のメッセージを語る教会とされたい。」と議長談話を出しました。

江口再起牧師は、「戦争を神学する ―ルターとボンフェッファー―」という論文を次のように結んでいます。

「そして、言うまでもなく中心はイエスの教えである。山上の説教（『平和を実現する人々は、幸いである。その人たちは神の子と呼ばれる』【マタイによる福音書5：9 新共同訳】や、隣人の愛の教え【5：44】、『剣を取る者は皆、剣で滅びる』【マタイによる福音書26：52 新共同訳】である。もちろん『聖書』にも、イエスの言葉の中にも、平和の教えとは必ず読み取れない箇所もある。しかし、様々な言葉があるにしても、イエスの言葉【教え】の『可能性の中心』から理解すべきである。それが『聖書』を読み解釈する意味である。

絶対平和主義は、理想論にすぎず、『平和ボケ』であるという声も聞こえてくる。そうだろうか。むしろ今こそ、絶対平和主義という理想の火をあかあかと掲げつづけるべきではなかろうか。私は、そう思う。『平和の神学』こそ、人類最後の神学である。」

と言ってほしいと願っています。「肝苦（ちむぐ）りさ」。

平和の神学は「肝苦（ちむぐ）りさ」。相手のことを思うなら、その痛みを我がこととして背負う神学であり、私たちの信仰の証しです。

『平和を実現する人々は、幸いである。その人たちは神の子と呼ばれる』【マタイによる福音書5：9 新共同訳】

牧師室の小窓からのぞいてみると

交渉



米国とイランの戦争の終結にむけての交渉が日々、変わり世界が政治、経済的に振り回されている。完全な和平が見えてこない。なぜ交渉事がこんなに変わるのか私なりに考えてみると聖書の世界は、特に旧約の民であるアラブ社会は交渉力こそが力であると思う。今、イランは交渉力フル回転していると思う。アブラハムは神と交渉して、50人、正しい人がいればソドムとゴモラの滅ぼさないと神から引き出し、さらに交渉を続け10人までに引き下げて有利な条件を引き出した。

園長・瞑想？迷走記



盆休みに入り、昨年は病気で出来なかった幼稚園の補修作業をした。今回はI運転手さんから手伝っていただき、手洗い場、足洗いの場のペンキ塗りをした。私は以前塗った上から塗りなせば良いと思っていたが、Iさんは前のペンキを剥がすことから始めた。「するんだったら、綺麗に仕上がった方がいいでしょう。」と言。こちらは大いに反省の中で作業。

ペンキ塗りもイラン紛争が影響し、ペンキが高く、買いにくくなっているので、一昨年、残っていたペンキを使用。

予算もない、ないない尽くしの中での作業だったが、園児を思ってくださいるが方がいた。以前、運転手だったSさんも手伝ってくださいる。

そうこうしていると卒園生の祖父が強風で壊れた日よけのテントを張りにきてくださる。事務関係の元職員からこれからしようとしている必要な書類のアドバイスをいただく。ないないだけはない。あるあるのつながりの世界が幼稚園だと思った。

保育園は盆休み中、自由登園になっている。いつもよりも少ない園児だが、園児に合いに行く。ここが幼稚園と違うなあと感じる。そういえばH幼稚園も盆休みがなかった。いろいろの学びの盆休みでもあった。

日毎の糧

聖書：主は平和を宣言されます。ご自分の民に、主の慈しみに生きる人々に、彼らが愚かなふるまいに戻らないために。

詩篇85：9



ルター言葉から

倒壊寸前の家の様なこの世から私たちは警告される。ダビデと預言者はたる木であり、キリストはすべてを支える家の大黒柱である。

『卓上語録』M.ルター著、植田兼義訳、教文館

神の属性 忍耐

慈しみとまことは出会い／正義と平和は口づけし85:11

「口づけし」とは、対立していたものが和解するということである。それが神の起こす出来事である。「正義」を貫くと戦いがあり、平和は脅かされる。「平和」、「平和」というと「正義」が脅かされる。今、起きているウクライナ紛争はロシアのプーチン大統領の正義を貫いた結果であり、イランへの攻撃は、イスラエル・ネタニアフ首相、トランプ大統領もしかりである。

「正義の味方は、立派は立派だけれども非常に独善的になり、排他的になって、平和の破壊者になりかねない。」①

まさに、プーチン大統領、トランプ大統領が、そして覇権主義の中国の習近平という指導者が正義を振りかざし、平和がもっとも脅かされている時代ではないだろうか。まさに、倒壊寸前の家の様なこの世から私たちは警告されているのです。

「イエス・キリストによってもたらされた賜物の一つは、いつくしとまこととが共に会い、義と平和とが口づけしたということにではないでしょうか。」②と。キリストはすべてを支える家の大黒柱であるところに立ち帰る時が来ているのである。

主は平和を宣言されます。ご自分の民に、主の慈しみに生きる人々に、彼らが愚かなふるまいに戻らないために。

引用：①②詩編講話上下

北森嘉蔵 教文館

祈り：世界が愚かなふるまいに戻らないように目覚めさせてください。アーメン。

甘本通信

「コヘレトは言う。空の空 空の空、一切は空である。コヘレト1：2」



小友聡牧師は、「空」を「束の間」と訳せるという。「空の空、一切は空である。」を「すべては、ほんの束の間である」と訳されると言って、『人生は束の間である』という事実をコヘレトじっと見つめています。それを無意味だと決して言いません。むしろ、それだからどう生きたらよいかを、知者コヘレトは徹底して考えるのです。」「(それでも生きる」小友聡 NHK出版)

高校生のとき大病して、それゆえに今、将来を諦めることが多くあり、人生の空しさを感じていました。キリスト教に出会い、人生を空しく感じることは変わったかという引き続きあった。神学校に入学を許され、信仰について学んでいくうちに人生は空しいゆえに、それだからキリストに生かされ、どう生きたらよいかを考えるようになった。

今回、ブラジル時代に大変にお世話になったKさん夫妻がわざわざ福岡まで来てくださった。73歳になって、これが最後の出会いで、束の間の一瞬の時だと肌で受けとめて、今日、どう一緒に過ごそうか一生懸命に考えた。この束の間の一瞬の時を逃してはいけないと思ってお会いした。

幸い風が吹き、酷暑日より解放される日となり、大宰府見学、そこで一人で食べきれないかき氷を食べ、「一つを分け合えば良かったね」とたわいもない会話。博多に移って、天神、新天町の見学、博多名物の屋台、うどん屋に。その間に、ブラジル時代の思い出話に花が咲き、受けた感謝の気持ちを伝えた。空しい人生だからこそどうすごしたら良いかということを老いて増々、体で考えるようになっている。

(甘本日記)土) 昨夜から甘本教会。去年は病気、真っ最中。今日は汗して動けている。日) 礼拝、夏季聖書講座。帰りに水遣り。月) 幼稚園盆休み前の預かり保育。手、足洗い場のペンキ塗り。手伝ってくださった方が丁寧にペンキ剥がしから。火) 今日が休日とは知らずとみんなで笑いながらペンキ塗り。水) 大学病院健診、ブラジル時代の大恩人ご夫妻と会う。木) 自由登園の松崎保育園訪問。教会の庭の草取り。金) 主日の準備。

おまけ・牧師のぐち（続日記）牧師だって神さまの前でぐちります。 はぐちらない聖人（牧師）もいますが。

土）昨夜、23時に甘木教会に着き、水遣りをし、主日の準備。就寝2時、6時から8時半まで水遣り、草取り、ゴーヤの実を調理。老人にしてはよく動く。去年は病気で、この時期にいったい何をしていたのかいっこうに頭に浮かばない。午後から久留米に戻り、筑後地区女性会の平和礼拝に出席。夕刻、甘木へ。妻と夜、公営温泉に。日）早朝から水遣り、草取り、汗が出てシャワーにかかり、汗の滲みた服を洗濯。礼拝。暑さとお盆のためか出席者が少ない。礼拝後夏季聖書講座で「福音書」について話す。水撒き、草取りをして夕刻、久留米に帰る。月）幼稚園に行き、運転手さんと水場のペンキ塗りの開始。前回のペンキを剥がす下準備。今日は日差しも強くなく作業が少し楽だった。夏休み中には自分で園、教会の補修、保全作業がもともとと出来たがどうも体が追い付かない。老いた。明日から幼稚園は盆休み。帰りに前から気になっていた餃子屋さんに寄り、一杯ひっかけ

る。ビール、餃子2皿で600円。癖になりそう。火）早へ。水撒き、芝生に肥料を撒車も車で行って片道50分。

ちらかにしよう。残っていたアイボリー色のペンキで塗り。10時から始めて15時に終了。帰宅後、シャワーを浴びて、マッサージに行く。水）午前中、朝は夏休み中の日善幼稚園に行き、その後、大学病院で定期健診、検査。「今月から支払い負担が変わります。」、「え！どういうことですか?」、「3割負担から2割負担です」。負担が減るのは良いのですが、申し訳ないとか、歳をとったということかという複雑な気持ちになる。血液検査、CT検査。去年は毎週の通院だったが、3ヶ月後の検査。体調も普通に帰ってきている。午後からブラジル時代からの友人Kさんと奥さんが、愛知からわざわざ、博多に来てくださる。Kさんは鍼灸・整体師で、また器用な方で、ブラジル時代、健康、生活面で、家族みなが助けられた。大宰府に見学、夜、福岡の名物、屋台に行く。そしてうどん屋で。感謝しても感謝しきれない方である。帰宅し、メールチェック。木）自由登園になっている松崎保育園を訪問。子どもたちが元気でホッと。「いただいた布袋葵の花が咲きました」と先生に聞き。夏を感じる。夕方まで教会。庭の草取り。帰宅途中、大雨。老いると運転は怖い。帰宅。運転について側の家内からダメ出し。金）よく動いた。感謝。動かされることに感謝。



朝に車で甘木教会
いて久留米に戻る。電
その時々によってど

